

【目的】世代間の断絶が問われる中、若者の生き方や考え方を知る上で、彼らのファッション志向は暗黙のうちにその手がかりを示すものと考えられる。若者のファッションアイテムとして、昨年流行したピアス、カラーリング、厚底靴、ブランド品、ガングロ、ルーズソックスを取り上げ、各アイテムに対する好き嫌いから彼らのファッション志向を把握するとともに、経済状況および性格等との関わりを検討した。

【方法】2000年11月に高校生(男子150名、女子85名)大学生(男子87名、女子178名)計500名を対象にアンケートによる自記式集合調査を行った。有効回収率は99%である。調査集計後、単純集計結果を女子大学生に提示し、自由記述の意見徴収を行った。

【結果】ピアス、カラーリングは好きと答えるものが多く、また両者に対する好みの相関も高く、若者の定番ファッションとなる傾向がみられた。これらは身体の一部(皮膚、毛髪)に対する加工であるという点から、従来の着装によるファッションとは異なった意味をもつものである。一方、ガングロ化粧はほとんどのものが嫌いと答えているが、厚底靴との好みの相関が高く、両者は関連したファッションアイテムであることが明らかとなった。また、女子高生アイテムであるルーズソックスに対しては、どの層においても約30%のものが好きと答えており、女子高生のかわいらしさイメージとして若者の中に定着していることが考えられる。さらに若者のファッション志向の差異はアルバイトや支出費目などの経済状況や性格、悩みごとなどとも関わりがみられた。